

副会長会の報告

期日 平成25年8月1日(木)  
会場 全国連合退職校長会  
事務局 会議室

出席者

- 北海道 戸張 敦雄 会長
  - 東北 森 剛副会長
  - 関東甲信越 鈴木 信光副会長
  - 東京 清水 章夫副会長
  - 東海北陸 片岡 敦子副会長
  - 近畿 大竹 武士副会長
  - 松重 享蔵副会長 (欠席)
  - 中国 山田 忠男副会長
  - 四国 横山 和雄副会長
  - 九州 池田 大洋副会長
- 他に各部長・各委員長、事務局長及び事務局職員、計19名が出席。

◆会議の概要

- 司会 総務部長 入子 祐三
- 一、開会のことば 副会長 大竹 武士

二、戸張会長挨拶(要旨)

東日本大震災の復旧・復興の加速等の要望をはじめ、会員・後進の福祉の向上・充実を目指し、現職の校園長会を支援する姿勢を一層明確にしていく所存です。

会員数の減少傾向から本会の将来像を確立していこうという目的で、会務運営・財務状況健全化・組織対策の各検討会議を設けて協議し、本部組織の改善・少数精鋭による本部の運営等、「レジームの転換」へ舵を切ることができたと考えます。25年度はその成果が問われる年になると心に決めて全連退の活動に当たる覚悟です。

本年は副会長の異動があり、9名のうち7名の方が新たに就任され、新鮮な発想をご期待申し上げる次第です。

三、報告

1 総会・常任理事会の報告

総務部長 入子祐三

2 各部・各委員会の事業の進捗状況

総務部

- 理事会・総会の準備・運営。
- 中央省庁への要望書提出。
- 文部科学省初等中等教育局長との懇談会の企画。
- 現職幼・小・中・高・特別支援校園長との連絡懇談会実施。

教育振興部

- 「教育の日」の制定推進及び事業の充実に寄与する。
- 学校週5日制について検討。
- 「家庭教育の指針」作成をスタートした。(2年計画)

生涯福祉部

- 生涯学習活動の振興・充実及び生活の安心・安定に係る情報の収集と広報に努める。
- 26年度に米寿(88歳)、上寿(100歳)を迎える会員を調査し、賀詞・寿詞を贈る。

広報部

- 年間4回(188号・189号・190号)

191号)発行する。

- 1月発行(190号)の会報は、新会員勧誘支援用として希望する都道府県に増配する。

会計部

- 会費が順調に納入されている。
- 地区連絡協議会の折、会員数を基に補助金を交付している。

教育課題答申委員会

- 会長から3つの課題が諮問され、今「道徳の教科化」について諸資料を基に教科化の利点や問題点を討議している。

出版事業委員会

- 第6回の図書出版を進めている。執筆していただく方に執筆依頼文書をサンプル原稿とともに発送した。

3 各省庁への要望書

- 内容の詳細は、本誌P2〜3参照

## 四、各地区の現状と課題

## ①北海道地区 会長 森 剛

- 2年前に会務運営検討委員会を設け、予算を節約しようというところで検討の結果、会議数の削減に踏み切った。

- 各支部とも支部の活動に魅力を持たせ、退会を防ぐようにしたいと努力している。

## ②東北地区 会長 鈴木信光

- 被災支部や学校、避難している会員を支援することを目的とする「支援活動委員会」を設置して事業を進めている。

- 被災された会員の県会費免除（全連退会費免除も年度毎に要望）。規模を圧縮した予算で適切な運営に努める。

- 被災支部や学校を支援するため、会員の自助・共助の精神に立った「ワンコイン・サポーター事業」による支援金を立ち上げ、支援活動を進めている。

## ③関東甲信越地区

会長 清水章夫

- 新入会員の加入状況は良好で

あるが、その後、退会する傾向があるので、その対策の必要を感じている。

- 88歳以上会費免除を実施しているところが多い。25年度の地区連絡協議会埼玉大会の協議題として、「退職校長会財務状況健全化への取り組み」というテーマで「財政的視点からの課題と解決の方策」について協議する。

## ④東京地区 会長 片岡敦子

- 都教委との委託契約事業の一つに、人材バンク登録者対象講座の開催というのを受け持っている。一般登録者を対象として学校が受け入れ易いように、ボランティアの人たちの資質を高めることが趣旨。
- 採用候補者養成講座開催への支援として、4月に教壇に立ったときに役に立つようという趣旨で、学級経営についての演習を退職校長が担当。

## ⑤東海北陸地区

会長 大竹武士

- 静岡県では「親和会たより」を作り、全会員から200字のエッセーをいただいで冊子にすることを約40年続けている。

- 組織というのは、何もしていかないでだんだん衰退していく。静岡岡の場合はフェスティバルと称して、県内を3地区に分け、中を4つに分けて3地区のうち2つが、研究会、作品展、懇親会を行う。地区の広い所は、作品を運ぶのに大変であるが、苦勞を重ねていきながら組織は固まってくと思う。

## ⑥中国地区 会長 山田忠男

- 昨年、中国地区協議会が山口市で開催され、前任の徳永会長が中国地区だけの会誌（仮称）を作ってみたいと提案されたが、結論的にはもう少し検討してから取り組もうということであった。編集や印刷費等吟味し、実現に向けて努力したいと考えている。

## ⑦四国地区 会長 横山和雄

- 高齢者が増えるとともに新入会員が減っていくという大変な時期にさしかかっており、各県とも新入会員の獲得に苦勞している。

- 「教育の日」の関連行事については、一般県民へのPRの工夫も大切ではないかと思う。

## ⑧九州地区 会長 池田大洋

- 23年度に緒についた九州地区退職校長会「綱領」が、大会で制定された。

- 九州は、これから「教育の日」の制定に努力していかなければならない。退職校長会の力だけではなく、地域の人の力、地域の人のエネルギーがないと、より望ましい方向にはいかない。教育懇和会の人々と一緒になって事業に立ち向かっていくことが大事である。

## 五、閉会のことば

副会長 片岡敦子